

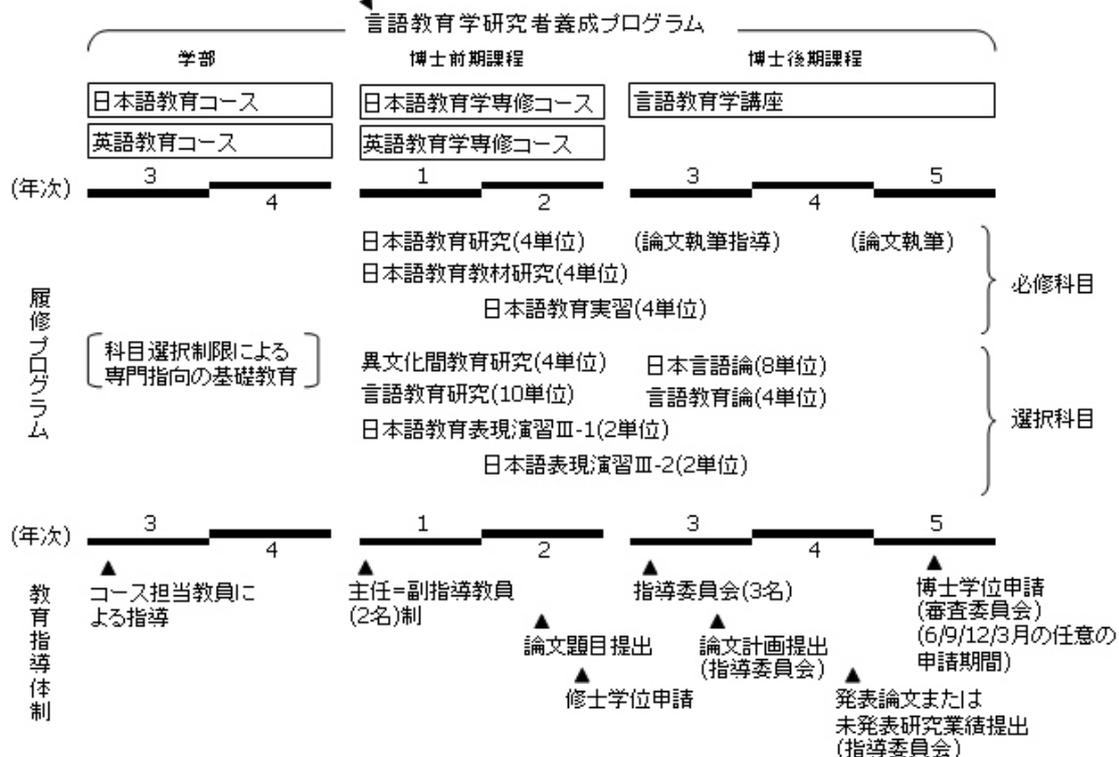
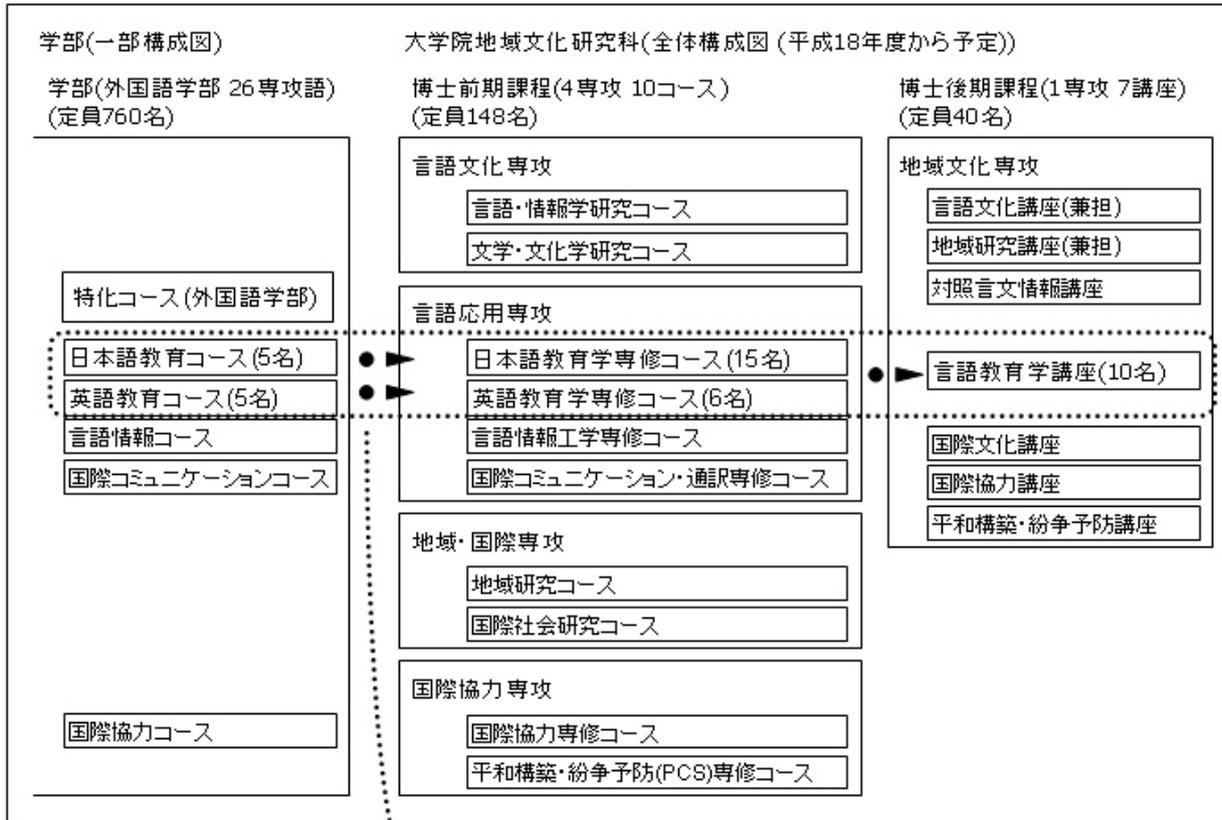
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東京外国語大学	整理番号	a006
1. 申請分野(系)	人 社 系		
2. 教育プログラムの名称	多言語社会に貢献する言語教育学研究者養成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 言語学、心理学、教育学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (外国語教育、日本語教育、言語学、教育心理学、教育学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 地域文化研究科・地域文化専攻〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 立石 博高	
	(その他関連する研究科・専攻名) 地域文化研究科・ヨーロッパ第一専攻、ヨーロッパ第二専攻、ヨーロッパ第三専攻、アジア第一専攻、アジア第二専攻、アジア第三専攻、日本専攻〔博士前期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本教育プログラムで推し進めようとする21世紀にふさわしい「多言語社会に貢献する言語教育学研究者養成」、特に、日本語教育学、英語教育学の分野における先端的研究者を養成するという方針は、学長直属の「教育改革・研究推進室」等での検討結果に基づくものであり、本学が教員配置面でも財政面でも、全面的に支援するものである。本学の教育研究の基本理念は、日本を含む世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育と研究を通じて、地球社会における多言語・多文化間の相互理解を促進し、その平和的共存・共生に寄与することである。また、グランドデザインの一つには、「日本語教育研究の世界的拠点」となることをあげている。</p> <p>本学は、この教育理念に基づき、日本語教育学、英語教育学を核とする「言語教育学」の人材養成を、本学の現在最も優先すべき課題の一つであると位置付け、まず、平成14年度に博士前期課程に「日本語教育専修コース」を、平成15年度に「英語教育専修コース」を設置し、平成16年度に、博士前期課程と外国語学部との連携による学部大学院一貫の「日本語教育」と「英語教育」の特化コースを新設した。さらに、平成17年度概算要求では、博士後期課程言語文化コースにおける「言語教育学研究者」養成をより本格的なものにするため、「言語教育学講座」の新設を申請し、教員4名(純増2名)、博士後期課程学生定員10名の「言語教育学講座」の新設が認められた。</p> <p>現在さらに、現代社会のニーズにより効果的に応えうる、より一貫性のある「言語教育学研究者」養成体制を実現するため、博士前期課程の改組に取り組み、平成18年度より言語応用専攻を設置し、日本語教育学と英語教育学をその核とすることになっている。</p>			

機 関 名	東京外国語大学	整理番号	a006
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本学は、教育研究の基本理念に基づくグランドデザインを軸にして、教育研究活動の充実を図るために、上記のような組織的改革に一貫して取り組んできた。また、それに対応して教育指導体制の改善・整備も行ってきた。授業評価アンケートの実施とそれを考慮した授業改善、博士前期・後期課程における複数教員による指導体制の充実等である。</p> <p>また、学生の自立的研究活動の支援としては、21世紀COE「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、及び、「史資料ハブ地域文化研究拠点」に大学院生を積極的に参加させるとともに、その成果発表のための国内外の研究会、国際会議への参加の奨励、大学院生用研究雑誌(『言語・地域文化研究』)への投稿指導、さらに、「博士後期課程在籍者研究総覧」の作成による大学院生の研究成果の公表を行っている。</p> <p>また、大学院生のティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)としての採用、地域の日本語教室の見学・ボランティア活動、他国の英語教育の視察、言語教育学関連企業へのインターンシップ派遣なども積極的に行ってきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>今後我が国が直面する多言語社会化に対応するために、現在もっとも必要なのは、個別言語教育論ではなく、多様な言語文化環境の中から見出した普遍的な言語教育理論に基づいた、グローバルな視点からの「言語教育学」の研究であり、それを実践する研究者、及び、その分野の指導者となる人材の育成である。普遍的な言語教育学の観点から、先端的な研究を推進し、そこから得られた知見を、逆に個別言語の研究・教育に還元し、多言語社会のより豊かな発展に貢献できる言語教育学研究の専門家を育成することは、「地球社会における平和的共存・共生に寄与する」という本学の理念を実践するものであり、我が国の言語政策上も極めて重要である。</p> <p>そのために 言語教育学に関する教育組織の展開・強化、及び、21世紀COE「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」プロジェクトにおける大学院生への教育を通して、さらなる大学院教育の実質化を推進する。具体的な取り組みとしては、学生自身の研究計画力・研究遂行能力を高め、幅広い視野を修得させるために、「言語教育学臨地調査」、「言語教育学自立研究」、海外における実習や研修等の自主的な活動の単位化を検討し、カリキュラムに組み込むこと、また、博士後期課程においては、「遠隔教育」を取り入れることによる「短期在学コース」の創設の検討を計画している。また、大学院内に「言語教育学プログラム推進室」を設け、学内拠点とする。また、研究開発に関しては、言語教育学プログラム推進用のスペースを用意し、従来の個別言語に特化した言語教育学を、普遍的な言語理論に基づくものとしての言語教育学に有機的に統合、高度化し、本教育プログラムに必要な研究開発を行う。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	東京外国語大学	整理番号	a006
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 631 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 680 1428 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 920 635 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 969 1428 1285" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 969 1428 1146">・「言語教育学」という分野を確立し、この分野の人材育成を目指すという目標は明快であり、これまでの実績に基づき、「言語教育学プログラム推進室」を設置し、学内外における教育実習・インターンシップや遠隔教育を取り入れた「短期在学コース」の創設により、実現しようとする試みは、評価できる。 <li data-bbox="172 1162 1428 1285">・「多言語・多文化社会」という観点からの実践的取組がやや弱く、また、日本語・英語教育に止まらず、大学の人的資源を広く動員する体制を制度化するなど、目的を実現するための、さらなる工夫が望まれる。 			